

生活科の飼育活動における教科書比較調査

小林 道正

要旨 : 小学校では2020年度から新しい学習指導要領のもとで編纂された教科書が使われている。生活科教科書の「飼育活動」に関する内容について、8社の生活科教科書の比較調査を行った。その結果、全社においてウサギやチャボなどの哺乳類・鳥類を掲載されていた。特にモルモットを飼育する生きものとして取り上げている教科書は7社あり、1年生が使用する上巻であった。

1 はじめに

比較調査を行った対象は、令和2年発行の生活科教科書の全8社（東京書籍、啓林館、大日本図書、教育出版、学校図書、光村図書、日本文教出版、信州教育出版社）、上巻と下巻の16冊である。

これらの教科書は、平成29年に告示された小学校学習指導要領とその後に文部科学省から発行された「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編」に基づいて編纂され、文部科学省検定済のものである。

生活科で指導する「飼育栽培活動」は、学習指導要領の目標と内容において次のように明記されている。

（7）動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

そして、指導の際の配慮事項として「2学年間にわたって取り扱うものとし、動物や植物への関わり方が深まるよう継続的な飼育、栽培を行うようにすること」というように指示されている。

なお、飼育栽培する具体的な種類や期間については明記されておらず、児童や学校の実態に応じて適切なものを選択するようになっている。

2 生活科教科書の比較

生活科の教科書は上巻と下巻に分かれて

おり、上巻は1年生、下巻は2年生が使用することを想定して編集されている。多くの学校で教科書を基にして授業が進められているため、授業で何を飼育したらよいか、どのようなことを観察すればよいかなどが子供にも教師にも分かるように説明されていることが求められる。

そこで、飼育活動に関する学習の単位について、単元名、ページ数、取り上げられている生き物の種類について調べ、一覧表にした。そして、それらの生き物の中で、子供が観察して記録した「観察カード」の例として紹介されている生き物と、飼育の仕方として容器や餌についての説明があるかを調べた。（表1・次ページ）さらに、生き物の種類ごとに、扱われている教科書数を調べた。（表2・次ページ）

（1）単元名について

単元名を見れば、どんな学習をするのかが分かるように「いきもの」という言葉が多く使われている。上巻では「なかよし」「大すき」「友だち」「いっしょ」などの用語も多く見られ、生き物に親しむことが伝わってくる。そして下巻では「はっけん」「はかせ」などの用語が多く、探究的な活動が連想される。

（2）ページ数について

ページ数の平均は12ページである。最も多いのは18ページで、最も少ないのは8ページで、学習活動の違いや資料ページの有無が関係している。

表 1 各社教科書の飼育単元名・ページ数・生き物の種類の一覧

出版社	上巻	下巻
東京書籍	単元名：いきもの と なかよし ページ数： 9 ページ ウサギ,モルモット,ハムスター,昆虫(バッタ,コオロギなど 14 種) 観察カード：バッタ 飼育の説明：ショウリョウバッタ,オンプバッタ,トノサマバッタ,コバネイナゴ,コオロギ	単元名：生きものと仲良しだいさくせん ページ数： 1 1 ページ 昆虫(チョウ,トンボなど 4 種),カエル,ダンゴムシ,アメリカザリガニ 観察カード：アゲハ,ダンゴムシ 飼育の説明：ダンゴムシ,カエル,トンボ,アゲハ
	単元名：生きもの 大すき ページ数： 1 4 ページ ウサギ,モルモット,イヌ,ハムスター,チャボ,昆虫(バッタ,チョウなど 9 種),魚,ダンゴムシ 観察カード：モルモット,バッタ,魚 飼育の説明：モルモット,ショウリョウバッタ,オンプバッタ,コオロギ,ダンゴムシ,ナナホシテントウ	単元名：みんな生きている ページ数： 1 4 ページ モルモット,昆虫(チョウ,トンボなど 7 種),カエル,カタツムリ,ダンゴムシ,カニ 観察カード：カエル 飼育の説明：アゲハチョウ,トンボ(やご),カエル,ダンゴムシ,カニ
大日本図書	単元名：いきもの と なかよし ページ数： 1 0 ページ ウサギ,モルモット,ハムスター,ニワトリ,ヤギ,ヒツジ,昆虫(バッタ,チョウなど 8 種),ダンゴムシ 観察カード：コオロギ,カマキリ 飼育の説明：コオロギ,テントウムシ,カマキリ	単元名：いきものはっけん ページ数： 1 2 ページ 昆虫(チョウ,トンボなど 8 種) ダンゴムシ,カタツムリ,ザリガニ,カエル,魚 観察カード：ダンゴムシ,トンボ 飼育の説明：ダンゴムシ,カタツムリ,トンボ(やご),ザリガニ
	単元名：なかよくならうね 小さなともだち ページ数： 1 0 ページ ウサギ,モルモット,チャボ,ダンゴムシ,昆虫(コオロギ) 観察カード：モルモット 飼育の説明：ダンゴムシ,コオロギ,モルモット,チャボ	単元名：めざせ生きものはかせ ページ数： 1 2 ページ 昆虫(バッタ,トンボなど 5 種),カナヘビ,ダンゴムシ,カエル,アメリカザリガニ 観察カード：バッタ,トンボ 飼育の説明：シオカラトンボ,クロオオアリ,ショウリョウバッタ,アゲハ
学校図書	単元名：いきものだいすき ページ数： 1 4 ページ モルモット,ニワトリ,アヒル,ヤギ,ウサギ,昆虫(トンボ,バッタなど 8 種) 観察カード：モルモット,コオロギ,バッタ 飼育の説明：モルモット	単元名：生きものと友だち ページ数： 1 4 ページ 昆虫(トンボ,チョウなど 4 種) ダンゴムシ,カエル 観察カード：ダンゴムシ,カエル 飼育の説明：ダンゴムシ,カエル(おたまじゃくし),トンボ(やご),アゲハ,キリギリス,アリ
	単元名：いきもの と なかよし ページ数： 1 2 ページ モルモット,ハムスター,ウサギ,チャボ,昆虫(バッタ 3 種),ダンゴムシ 観察カード：モルモット 飼育の説明：モルモット,ダンゴムシ,ショウリョウバッタ	単元名：小さな友だち ページ数： 1 2 ページ 昆虫(バッタ,チョウなど 4 種),ダンゴムシ,トカゲ,カエル,アメリカザリガニ,カタツムリ 観察カード：ダンゴムシ,アゲハ,アメリカザリガニ 飼育の説明：ダンゴムシ,アゲハ,アメリカザリガニ
日本文教出版	単元名：生きものとなかよくならう ページ数： 8 ページ ウサギ,モルモット,チャボ,昆虫(トンボ,バッタなど 5 種),ダンゴムシ,カエル,カナヘビ,魚 観察カード：モルモット,ウサギ,ダンゴムシ 飼育の説明：無	単元名：生きものはかせになろう ページ数： 1 8 ページ モルモット,ヒツジ,昆虫(バッタ,トンボなど 11 種)カタツムリ,魚,ダンゴムシ,カエル 観察カード：モルモット,ダンゴムシ,バッタ 飼育の説明：カブトムシ,トンボ(やご),ダンゴムシ,ショウリョウバッタ,メダカ,モンシロチョウ(アオムシ),カエル(おたまじゃくし),カタツムリ,モルモット
	単元名：いきもの と いっしょ ページ数： 1 4 ページ ヤギ,ウサギ,カモ,カタツムリ,カナヘビ 観察カード：ヤギ,ウサギ,カナヘビ 飼育の説明：無	単元名：いきもの と いっしょ ページ数： 8 ページ ウサギ,ヤギ 観察カード：ウサギ,ヤギ 飼育の説明：無

(注) 単元のページ内に掲載された生きものを表記した。哺乳類と鳥類は太字で表記した。

表2 生き物の種類と取り上げられている件数（教科書出版社数）

社数	上巻	下巻
8	ウサギ	
7	モルモット	カエル,ダンゴムシ,昆虫（トンボ,チョウ等）
6	チャボ,ニワトリ,昆虫(コオロギ,バッタ等)	
5	ダンゴムシ	
4		アメリカザリガニ,カタツムリ
3	ハムスター,ヤギ,魚	
2	カナヘビ	モルモット
1	イヌ,ヒツジ,アヒル,カモ,カエル,カタツムリ	ウサギ,ヤギ,ヒツジ,魚,カナヘビ,トカゲ,カニ

(3) 生き物の種類について

生き物の種類は上巻と下巻で違いがあり上巻は哺乳類が多く、下巻は昆虫が多い傾向にある。

上巻では、学校で飼育されているウサギやチャボ、モルモットなどの哺乳類や鳥類が多い。ウサギは8社全ての教科書で取り上げられており、モルモットは7社、チャボとニワトリは6社である。特にモルモットについては、関わり方や飼育の仕方について5社の教科書に詳しく説明されている。子どもが可愛がっている様子や困ったときには獣医師に相談するような場面が写真やイラストで紹介されている。子どもの観察カードには、モルモットの身体づくりの特長や動きが表現され、心情面を思いやる優しさなどが記されている。ウサギやチャボ、ニワトリについては飼育小屋や校庭にいる写真やイラストなどで紹介されている。

下巻では、バッタ、トンボ、チョウなどの昆虫とカエル(おたまじゃくし)、ダンゴムシなどが最も多く扱われている。それらの生き物の棲んでいる場所や飼い方、成長の様子などの資料が豊富に掲載され、子ども一人一人が自分で調べて飼育する活動ができるようになっている。子どもの観察カードには、自分で飼育している生き物の体のづくりや動きの特長が詳しく記録され、成長の変化に伴って食べる餌や動きの変化についても丁寧に記録されている。

3 モルモットを教材にした教科書の例

本研究会で推薦しているモルモットの飼育活動を取り入れている教科書の例として「光村図書・せいかつ」の上巻 p62～73, 単元名「いきものとなかよし」を紹介する。この教科書を使った授業の展開例は光村図書のホームページで公開されている。指導時期は9～10月で配当時数は9時間である。



光村図書・せいかつ上・p.64～65

生き物と関わった経験について話し合いモルモットと対面する。餌をあげたり、抱っこしたりして触れ合い、詳しく観察する。



光村図書・せいかつ上・p.66～67

モルモットの世話の仕方や関わり方について調べたり、詳しい人（獣医師）に教えてもら

ったりして、継続的に生き物の世話をする準備をする。以後、日常的な世話を行う。ただし配当時間外とする。



光村図書・せいかつ上・p.68～69

分かったことや思ったことを観察カードに記録したり、話し合ったりして全員で共有する時間をもつようにする。定期的に獣医師の支援を受ける。



光村図書・せいかつ上・p. 70～71

これまでの活動を振り返り、自分でできるようになったことや命の大切さなどについて話し合う。

全ページにわたって写真やイラストに吹き出しが多く使われていて、児童がモルモットと触れ合う中での気づきや思ったことなどが表現されている。観察カードにはモルモットが安心して過ごせるようにという思いやりの気持ちや命の大切さについての考えが書かれている。

最後に昆虫の飼育が紹介されているが、発展的な学習の扱いになっており、実施するかどうかは学校の判断に任されている。

4 おわりに

生活科では、新旧の学習指導要領の教科

の目標と内容に大きな変更はないことから、各社の教科書ではこれまで使われていた教科書と大きく変わったところはない。したがって、今年度から使用されている教科書の飼育動物の種類や活動内容についても同様に、これまでと大きな変更は見当たらない。上巻の教科書で扱われている動物が、学校で飼育されているモルモットを中心にしてウサギとチャボが多いのは例年通りといえる。

その一方で、学校で飼育されている動物が減少している調査結果が気かりである。特にウサギやチャボなどの哺乳類や鳥類が激減しているという。「小学校における鳥インフルエンザ後の動物飼育状況—全国調査」(中島・2019)によると、学校で飼育されている動物の割合は、ウサギ 21.1%, チャボ 5.9%, モルモット・ハムスター1.9%である。この現状は、多くの教科書でウサギやモルモットを教材として取り上げていることと大きな隔たりを感じるのである。学習指導要領のもとに編集された教科書を使った授業が、全国の小学校で行われているとは考えにくいのではないだろうか。

最近の子どもたちを取り巻く自然環境や社会環境は、生き物との触れ合いや可愛がって育てるという実体験の機会が乏しくなりつつある。生き物を継続的に育て、それらが食べ物を食べて排泄すること、成長すること、命を持っていること、時には具合が悪くなることなどに気づき、可愛がって世話をすることの大切さを体験的に学ぶことがますます重要となっている。生活科で学習しなければならない内容として、生きものの飼育体験を授業の中で行えるようにしていくことが大切ではないだろうか。

(聖心女子大学非常勤講師／元国立吉備青少年自然の家所長)